

特に優れている点	1 大阪市 施策	<p>○【自ら学び考える】題材は「自分の考えや感じ方を大切にする表現の追求」をテーマにし、難易度を考慮し、順序性が整っている。また「考えをひろげて」のコーナーで発展的な内容が示されており、個々の児童の思いに対応できる。</p> <p>○【言語活動】巻頭に、3ページ展開の「小さな美術館」で我が国や諸外国の作家の作品が掲載され、子どもへの問いかけが記載されているので話し合い活動を行い言語活動の充実を図ることができる。(全巻)</p> <p>○【伝統文化】低学年では日本の行事、また高学年では日本画の鑑賞や墨を用いた表現について、また諸外国の児童作品を全学年で取り上げており、我が国と他国の多様な文化の理解に活用できる。</p> <p>○【環境】全学年にわたって、身の回りの自然の材料を使い、地域や季節に合わせた材料の提供など自然環境への関心を高めることができる。</p> <p>○【人権】平和に対する意識を高めるよう、長崎の「平和の灯」を取り上げている。(5・6年上P42)</p>
	2 その他	<p>○「学習の目標」を示すとともに、児童一人一人が自分の活動を見直すことができるように「ふりかえって、はなしあおう」を活動の観点別に示している。</p> <p>○発想・構想の力が発揮されている写真には「いいこと考えたマーク」をつけて子ども一人一人の発想・構想の広がりや促したり、「考えをひろげてマーク」で具体的な例を示し、児童の学習意欲の喚起や主体的な活動をにこたえられるようにしている。</p> <p>○友達との共同作業等の場面を提示したり、児童間のコミュニケーションや言語活動を重視した題材を多く設定したりするなど、望ましい集団育成に役立つように配慮されている。</p> <p>○各題材に必要な材料・用具の扱いについては、「基礎的・基本的事項」としてグレー囲みで示している。また、巻末には「道具箱」「パレットコーナー」を設け、児童の主体的な活動の中で必要に応じて参照できるようにしている。</p> <p>○巻末の「道具箱」の中で、前学年の既習事項の確認を「もう一度たしかめよう」という囲みで示している。</p> <p>○形や色に注目して材料に視点を当てたり、イメージを広げていくことができるように児童の姿を写真やつぶやきで示したりして、「共通事項」を示す手立てとしている。</p> <p>○安全や後片付けについて、配慮すべき点を「安全マーク」や「かたづけマーク」とともに、写真やイラストをもとに示しており、児童の主体的な学びができるようにしている。</p>
	3 外的 要素	<p>○A4判で作品や作品を大きく掲載し、作品の細部や工夫がわかりやすい。</p> <p>○巻頭折込の「小さな美術館」においては、今を生きる芸術家の特集を大きく取り上げ、鑑賞を深める問いかけを示している。また作品の大きさやレイアウトなどがバランスがよく検討されており、視覚的に親しみがわきイメージが膨らむような構成になっている。</p> <p>○表紙は美しくしっかりと加工されているので耐水性があり、汚れが付きにくく、丈夫である。また表紙には「図画工作」だけでなく、心に響く書名が工夫された仕様でつけられ、図工の楽しさがよく伝わる。</p> <p>○ゴシックと丸ゴシックの2フォントとそれを適宜太字にすることで、読みやすい紙面になっている。またルビが適切にふってあるのでわかりやすい。</p> <p>○見開きの左右に「題材名」「主文」右下に「ふりかえり」の配置があり、学習しやすい。</p>
	4 構成 配列	<p>○児童の発達段階に合わせて6学年にわたって適切な内容が配列され、いろいろな材料や用具の体験ができるように配慮されている。</p> <p>○すべての巻において「造形的な遊び」「絵に表わす活動」「立体に表わす活動」「工作に表わす活動」「鑑賞活動」と5つの分野をバランスよく取り上げている。また、学校や地域の実情に合わせて指導計画が編成しやすいように、選択題材の設定がある。</p> <p>○題材ごとに「ふりかえって話し合おう」で鑑賞の能力の視点を示しており、表現から鑑賞へ、鑑賞から表現へと、鑑賞と表現が学年に応じて一体に扱われている。</p>
	5 資料	<p>○巻末の「みんなのギャラリー」「パレットコーナー」「道具箱」では、児童の関心・意欲を高めることができる。「ひらめきコーナー」では、短時間に取り組める表現活動を取り上げているとともに、「みんなでたのしく」で共同制作の活動例を紹介している。</p> <p>○巻頭と巻末資料ページの間に、年間指導計画に位置付けた各題材をうまく挟み込んでおり、配列も適切であり、分量もちょうど良い。</p>

特に工夫・配慮を要する点	1 大阪市 施策	
	2 その他	<p>○制作過程についての情報が少ない。(3・4年上P14, 5・6年上P12, P13, 5・6年上P14, P15など)</p> <p>○巻末の「道具箱」は情報が詰まりすぎている。(5・6年下)</p>
	3 外的 要素	<p>○A4サイズは保管しにくく児童の机上では扱いが制限される場面がある。</p>
	4 構成 配列	
	5 資料	<p>○1ページ記載の題材は児童が理解しにくく集中できない。(3・4年下P20・P21など)</p>

図画工作 2		日本文教出版株式会社 (116日文)
特に優れている点	1 大阪市 施策	<p>○【言語活動】全巻の表紙に掲載された児童作品には、作品への思いが、児童自身の言葉で掲載されている。児童が作品のよさや美しさを感じ、思いを語り合う活動に有効で、言語活動の充実を図ることができる。(全巻)</p> <p>○【人権】「ゲルニカ」(ピカソ)や「太陽の塔」(岡本太郎)などの作品を取り上げ、平和や人権に対する意識を高めることができる。(5・6年下P30)</p> <p>○【基礎基本】「ためす」「かかわる」「つくりだす」図画工作を目指して、6年間で身に付けてほしい基本的な内容を系統的に配列し、発達に合わせて繰り返し取り扱っている。また、自分が表現したい材料や表現方法を組み合わせ、表現方法や活動の展開に幅を持たせることができる。</p> <p>○【伝統文化】伝統玩具の紹介や日本の美術作品を多数紹介しており、日本の伝統文化を尊重しようとする態度をはぐくむことができる。また諸外国の美術作品を親しみやすく紹介し、多様な文化を理解する支援になる。(3・4年下P30,P48,5・6年上P35等)</p> <p>○【環境】身の回りの材料を使って新たなものを作り出す活動や、自然材を使って場所の雰囲気を変える働きかけなど、環境に対する関心を高めている。</p>
	2 その他	<p>○「評価の4観点」に対応した学習のめあてを、題材名の右横に大きく「黒板のイラスト」で示し、学習の導入時に意識することができる。(全巻)</p> <p>○「基礎的・基本的な事項」は、しおり型の囲みで示している。また材料・用具とその技法については巻末に6ページにわたって「つかってみよう材料と用具」としてまとめているので、児童の主體的な活動の中で必要に応じて参照できる。(全巻)</p> <p>○題材における主文の提案や独自のキャラクターの吹き出しによって、発想や構想のヒント、工夫するときのコツ、鑑賞する際の視点などに結び付き、児童の主體的な活動を引き出すことができる。</p> <p>○共同で制作する活動や展示する活動や、地域の人たちとつながる活動を紹介し、望ましい集団の育成につながる。</p> <p>○同一巻においても材料や用具を繰り返し取り扱っているため、児童が適切な取り扱いができる。</p> <p>○一枚一枚の写真やキャプションから児童が形や色を感じ取り、それらをもとに一人一人のイメージを持つことができるように、あらゆる場面において「共通事項」を取り上げて内容を構成している。</p> <p>○どの題材にも学習活動がイメージできるように、「きをつけよう」「かたづけ」のコーナーや活動のヒントとなるように「色や形のチーロさん」を用いて、後片付けも大切な学習であることを示している。</p>
	3 外的 要素	<p>○A4サイズより2センチ短いレターサイズはランドセルに入れやすい。また1冊につき、開隆堂より8～10ページ多い。</p> <p>○巻頭折込の「たのしいな おもしろいな」「教科書美術館」では、児童の生き生きとした造形活動の様子や迫力ある作家作品を取り上げ、児童の活動意欲が高まる。また写真や挿絵は大小のメリハリをつけ、児童が興味を持って紙面を見ることができる。</p> <p>○表紙は美しい光沢と耐水性のあるコーティングが施され、丈夫である。裏表紙には、表紙に掲載された作品の作者の言葉が載せられており、どのような意図で制作されたのかわかる。</p> <p>○児童の発達に合わせて特に低学年では文字を大きくするなど、文字数を調整して紙面を工夫している。</p> <p>○見開きの上に「題材名」「学習の目標」「主文」がまとめられ、左右に「かたづけ」が記載され学習の流れがわかりやすい。</p>
	4 構成 配列	<p>○6年間で児童に身に付けてほしい力を考慮して、発達段階に合わせた様々な体験ができるように各分野の題材を系統的に配列している。</p> <p>○すべての巻において「造形的な遊び」「絵に表わす活動」「立体に表わす活動」「工作に表わす活動」「鑑賞活動」と5つの分野をバランスよく取り上げている。また学校や地域の実情に合わせて活動内容を弾力的に選択できるように配慮している。</p> <p>○「学習のめあて」に「見たり考えたりすること」として、鑑賞の能力をはぐくむ視点を示しており、どの題材も活動や話し合いを通じてよさや美しさを感じ取ることができる。</p>
	5 資料	<p>○「教科書美術館」「図画工作の広がり」「ぞうけいのもり」といった資料ページにおいて、児童の造形への興味・関心を高めることができる。各巻の前半の題材は、前年度までの活動を考慮し、接続的な活動ができるように考慮されている。</p> <p>○中学校美術科や技術科への接続も取り上げている。(5・6年下P48)</p> <p>○低学年の一部の工作を除き、題材を見開きで示すことで、児童が落ち着いて誌面を見ることができるようにしている。また項数58ページ(表紙込)にし、年間活動において十分な分量である。</p>
特に工夫・配慮を要する点	1 大阪市 施策	○高学年の造形遊びでは自然環境や材料の扱いがない。
	2 その他	○設備等で扱いにくい題材がある。(5・6年下P12,P24)
	3 外的 要素	○文字がやや小さく説明文が多い。
	4 構成 配列	
	5 資料	